

採点項目	採点の視点	採点区分(注)1				採点度の係数	採点の基準	業務評定					技術者評定									
		一般調査	コンサルタント	設計	重み			監督職員	担当課長等	検査職員	重み	管理技術者		検査技術者								
								採点度	配点①	配点②		配点③	配点	配点	配点	配点						
専門技術力	コスト削減に対する取組	工事コスト、ライフサイクルコスト等総合的なコスト削減の観点から、検討方法や新技術による代替案の提案などに取り組んでいたか。	△	○	AA 1.0	担当者全員が高いコスト削減意識を持ち、各分野で積極的な提案等に取り組んでいた。	○	○	○	35	35	35	35									
					A 0.8	担当者によって差があったが、削減効果の高い分野における積極的な提案等に取り組んでいた。	○	35	○											35	○	35
					B 0.6	概ね取り組んでいた。	○	○	○											○	○	○
					C 0.4	コスト削減や代替案などへの取組が不足気味であった。	○	○	○											○	○	○
	環境との調和に配慮した取組	環境との調和のため、地域特性等に十分配慮するとともに、木材の積極的利用等の創意工夫に取り組んでいたか。	△	△	AA 1.0	担当者全員が地域特性や新技術等を十分理解し、各分野で積極的な創意工夫に取り組んでいた。	○	○	○	30	30	30	30	コンサル5 設計10	コンサル5 設計10							
					A 0.8	担当者によって差があったが、一般的な配慮や技術等に基づき、自主的な創意工夫に取り組んでいた。	○	30	○											30	○	30
					B 0.6	概ね取り組んでいた。	○	○	○											○	○	○
					C 0.4	配慮や創意工夫の取組が不足気味であった。	○	○	○											○	○	○
	地区の特性やニーズに応じた計画・設計への取組	計画・設計の検討は、地区、森林整備保全事業の特性及びニーズを踏まえ、取り組んでいたか。	△	△	AA 1.0	担当者全員が地区特性や幅広いニーズ、新技術等に基づき、高度かつ多様な検討に取り組んでいた。	○	○	○	35	35	35	35									
					A 0.8	担当者により差があったが、特性・ニーズに基づき、多様な検討に取り組んでいた。	○	35	○											35	○	35
					B 0.6	概ね特性やニーズを踏まえ、取り組んでいた。	○	○	○											○	○	○
					C 0.4	特性やニーズを踏まえた取組が不足気味であった。	○	○	○											○	○	○
計							100	100	100	100	100	100										
管理技術力	業務の実施体制	業務の実施のために必要な体制(安全管理体制を含む。)が確保されていたか。	○	○	AA 1.0	各分野の高度な専門的知見を有する担当技術者(技術士等)を専任で配置するとともに、日常的に内部打ち合わせを実施するなど体制が確保されていた。	○	○	20	20	20	20										
					A 0.8	豊富な知識・経験を有する者を専任で配置するとともに、内部打ち合わせを随時実施するなど体制が確保されていた。	○	20											○	20		
					B 0.6	概ね確保されていた。	○	○											○	○		
					C 0.4	体制の確保が不足気味だった。	○	○											○	○		
	打合せ内容の理解度、打合せ記録の作成	打合せ内容を確実に理解するとともに、打合せ記録の作成、結果への対応が的確に行われていたか。	○	○	AA 1.0	担当者全員が打合せ内容を十分理解・整理し、事後対応も的確かつ迅速に行われていた。	○	○	20	20	20	20	一般2 コンサル2 設計2	一般2 コンサル2 設計2								
					A 0.8	担当者によって差があったが、総じて理解度が高く、不明点の確認等も速やかに行われていた。	○	20											○	20		
					B 0.6	概ね的確に行われていた。	○	○											○	○		
					C 0.4	内容の理解や事後対応が不足気味であった。	○	○											○	○		
	内部関係者への情報伝達	指示・伝達された情報が、内部(組織)関係者に対して、的確に伝達されていたか。	○	○	AA 1.0	担当者全員に対して、指示・伝達情報が迅速(翌作業日まで)かつ的確に伝達されていた。	○	○	20	20	20	20										
					A 0.8	業務進捗、安全確保等の重要情報は、速やか(2~3日)に、それ以外についても数日中に伝達されていた。	○	20											○	20		
					B 0.6	概ね業務に支障が生じないよう伝達されていた。	○	○											○	○		
					C 0.4	情報伝達が不足気味であった。	○	○											○	○		
工程管理	工程管理が業務計画書に基づき的確に行われたか。	○	○	AA 1.0	当初計画が緻密であり、全工程において殆ど見直しもなく、十分な余裕をもって行われた。	○	○	40	40	40	40											
				A 0.8	各工程で必要な見直しはあったが十分な余裕をもって調整等が行われた。	○	40										○	40				
				B 0.6	概ね業務計画書に基づき行われた。	○	○										○	○				
				C 0.4	工程管理が不足気味であった。	○	○										○	○				
計							100	100		100	100											
ミス防止の組織体制	組織としてミスや手戻り作業を防止し、品質を確保するための対策が講じられていたか。	○	○	AA 1.0	チェックリストの活用や相互チェックを随時行うなど複数のミス防止策が講じられていた。	○	○	50	30	30	50	一般5 コンサル5 設計10	一般5 コンサル5 設計10									
				A 0.8	ミス防止の取組を各段階で行うなど十分な対策が講じられていた。	○	30											○	30			
				B 0.6	概ね対策が講じられていた。	○	○											○	○			
				C 0.4	具体的な対策が不足気味であった。	○	○											○	○			
問題点への対応	発生した問題点を速やかに監督職員に報告するとともに、的確に対応していたか。	○	○	AA 1.0	担当者全員が問題点の発生要因や他作業への影響等を分析・検討し、的確かつ迅速に報告・対応していた。	○	○	50	30	30	50	一般5 コンサル5 設計10	一般5 コンサル5 設計10									
				A 0.8	担当者によって差があったが、総じて高い水準で分析・検討等が行われ、的確に報告・対応していた。	○	30											○	30			
				B 0.6	概ね的確に報告・対応していた。	○	○											○	○			
				C 0.4	報告・対応が不足気味であった。	○	○											○	○			
照査技術者	適切な照査計画の下、第三者の視点で節目ごとに照査するとともに、照査報告書が作成されていたか。	△	△	AA 1.0	ほぼ日常的に照査が行われ、簡潔で分かりやすい照査報告書が作成されていた。	○	○	40	40	40	40			100				一般1 コンサル1 設計1				
				A 0.8	節目ごとに照査が行われ、的確な照査報告書が作成されていた。	○	40												○	40		
				B 0.6	概ね適切に照査報告書の作成等が行われていた。	○	○												○	○		
				C 0.4	照査報告書の作成等の取り組みが不足気味であった。	○	○												○	○		
計							100	100		100	100											
迅速性、弾力性	当初工程計画の変更(設計変更を前提)	協議を踏まえた工程計画の変更要請に対し、的確に対応していたか。	△	△	AA 1.0	担当者全員が変更要請を理解するとともに、余裕を持って、的確に対応していた。	○	○	50	50	50	一般1 コンサル1 設計1	一般1 コンサル1 設計1									
					A 0.8	担当者によって理解に差があったが、総じて的確に対応していた。	○	50										○	50			
					B 0.6	概ね対応していた。	○	○										○	○			
					-																	
当初計画に無い作業(設計変更を前提)	協議を踏まえた作業の変更(追加)要請に対し、的確に対応していたか。	△	△	AA 1.0	担当者全員が変更要請を理解するとともに、余裕を持って、的確に対応していた。	○	○	50	50	50	一般1 コンサル1 設計1	一般1 コンサル1 設計1										
				A 0.8	担当者によって理解に差があったが、総じて的確に対応していた。	○	50										○	50				
				B 0.6	概ね対応していた。	○	○										○	○				
				-																		
計							100	100		100	100											

採点項目	採点の視点	採点区分(注)1			採点度の係数	採点の基準	業務評定					技術者評定										
		一般調査	コンサルタント	設計			監督職員		検査職員			管理技術者		検査技術者		照査技術者						
							採点度	配点①	配点②	配点③	配点④	配点⑤	配点⑥	配点⑦	配点⑧	配点⑨	配点⑩					
コミュニケーション能力	説明力 協調性 自己の説明を補う努力	○	○	○	AA 1.0	担当者全員が、発注者側の体制を考慮した用語、図表等を使用するなど数多くの工夫をし、理解を得よう努めていた。	○	○														
					A 0.8	担当者によって差があったが、随所に図表等を活用することにより理解を得よう努めていた。	○	40	○	40				40								
					B 0.6	概ね理解を得よう努めていた。	○	○	○	○												
	円滑な業務遂行への努力	○	○	○	AA 1.0	担当者全員が「報告・連絡・相談」による情報共有、連携確保(電話等を含む。)を日常的に行うなど円滑な業務運営に努めていた。	○	○														
					A 0.8	担当者によって差があったが、ほぼ日常的に情報共有等を行うなど円滑な業務運営に努めていた。	○	30	○	30				30								
					B 0.6	概ね情報共有など円滑な業務運営に努めていた。	○	○	○	○												
	計							100		100												
	責任感 取り組み姿勢	責任感の強さ	○	○	○	AA 1.0	担当者全員が責任逃れの言動や曖昧な対応もなく、誠実さと責任感をもって取り組んでいた。	○	○													
						A 0.8	担当者によって差があったが、責任逃れの言動等がなく、責任感をもって取り組んでいた。	○	40	○	40				40							
						B 0.6	概ね誠実さと責任感を持って取り組んでいた。	○	○	○	○											
		積極性のあらわれ	○	○	○	AA 1.0	関係者全員が再確認を迅速(翌作業日まで)に行うとともに、日常的に提言等を行うなど積極性があらわれていた。	○	○													
						A 0.8	担当者により差があったが、迅速(翌作業日まで)に再確認や提言等を行うなど積極性があらわれていた。	○	30	○	30				30							
B 0.6						概ね速やか(2~3日以内)に再確認や提言を行うなど積極性があらわれていた。	○	○	○	○												
倫理観に基づく行動		○	○	○	AA 1.0	条項に反する行為や提出資料と異なる事実などは無かった(誤記等を除く。)	○	○														
					A 0.8	条項に反する行為や提出資料と異なる事実などは無かった(誤記等を除く。)	○	30	○	30				30								
					C 0.0	条項に反する行為等があり、是正等の対応も遅かった(※1)。	○	○	○	○												
計							100		100													
成果物の品質		目的の達成度	○	○	○	AA 1.0	設計の考え方や指示・協議事項を十分理解し、当初の目的・期待を超える成果が得られた。	○	○													
						A 0.8	指示・協議事項等を理解し、当初の目的・期待どおりの成果が得られた。	○	30	○	30				30							
	B 0.6					概ね目的に沿った成果が得られた。	○	○	○	○												
	的確な取りまとめ	○	○	○	AA 1.0	十分な現状把握、新たな技術・適切なデータ等に基づく検討・工夫が随所に見られ、従来のものに比べて非常に高い水準で取りまとめられていた。	○	○														
					A 0.8	現状把握等に基づく検討・工夫が散見されるなど、従来のものに比べ高い水準で取りまとめられていた。	○	30	○	30				30								
					B 0.6	概ね的確に取りまとめられていた。	○	○	○	○												
	図面の出来映え	△	△	○	AA 1.0	高い精度に加え、配置、表示方法等も創意工夫されるなど、従来のものに比べ非常に良好な出来映えであった。	○	○														
					A 0.8	十分な精度に加え、配置等も工夫するなど、従来のものに比べて良好な出来映えであった。	○	10	○	10				10								
					B 0.6	概ね良好な出来映えであった。	○	○	○	○												
	理解しやすい報告書	○	○	○	AA 1.0	系統立てた内容に加え、有効な写真・図表の活用、要約版の作成など多くの配慮がされ、従来のものに比べて非常に高い水準の報告書が作成された。	○	○														
					A 0.8	理解しやすい構成、内容があり、従来のものに比べ良好な報告書が作成された。	○	10	○	10				10								
					B 0.6	概ね理解しやすい報告書が作成された。	○	○	○	○												
ミスの有無	○	○	○	AA 1.0	極めて精度が高く、ミスがなかった。	○	○															
				A 0.8	精度が高く、軽微なミスも数ヶ所程度であった。	○	○	○	○													
				B 0.6	概ね軽微なミスのみで、修正も速やかに行われた。	○	20	○	20				20									
計							100		100													
合計																						
総合評定点																						

(注) 1. 採点区分の「○」は必須科目、「△」は選択項目、網掛け欄は採点の対象外である。
2. 測量作業の場合は「採点の視点」、「採点の基準」の「業務」を「作業」と読み替える。